



2013. Nov.  
第 11 号

一般社団法人日本演出者協会  
協会誌「ディー」

題字 千田是也

新劇の代表的演出家・千田是也氏の文字をロゴデザインに使用。

(資料提供／早稲田大学坪内博士記念演劇博物館)

特別対談『俳優の育て方、とは言っても。』

坂手洋二 × 篠崎光正



## Contents □

- |  |                                      |
|--|--------------------------------------|
| ■ 特別対談 坂手洋二 × 篠崎光正<br>「俳優の育て方、とは言っても。」 ..... 2 | ■ 理事会報告 ..... 14                     |
| ■ 演劇大学（演出家・俳優養成セミナー） ..... 6                   | ■ 部会だより ..... 15                     |
| ■ 国際演劇交流セミナー 2013 ..... 8                      | ■ アンケート「演出者の仕事」 ..... 16             |
| ■ 東北演劇 ○ NOW ..... 10                          | ■ 若手演出家コンクール 2013 ..... 18           |
| ■ 日本の近代戯曲研修セミナー 2013 ..... 11                  | ■ 在外研修 ..... 18                      |
| ■ 各地域活動通信 ..... 12                             | ■ 新入会員紹介 ..... 19                    |
| ■ 事業担当 ..... 13                                | ■ 退会・訃報 ..... 19                     |
| ■ 総会報告 ..... 14                                | ■ データに見る「日本の演劇祭—最近の主な国内演劇祭」 ..... 20 |
|  | ■ 編集後記 ..... 20                      |

一般社団法人日本演出者協会会誌「D」(ディー) 第 11 号 定価=無料 2013 年 11 月 1 日発行 平成 20 年 11 月創刊(毎年 2 回発行)

【発行人】和田喜夫(理事長) 【編集人】篠崎光正(広報部長) 【編集委員】篠本賢一・三谷麻里子・大杉 良・緑川憲仁・秋葉由美子

【インタビュー編集】鷺谷憲樹 【発行所】一般社団法人日本演出者協会 東京都新宿区西新宿 6 丁目 12 番 30 号芸能花伝舎 3F(〒160-0023) 電話 03-5909-3074

【編集・制作】一般社団法人日本演出者協会広報部協会会誌「D」編集委員会 【題字】千田是也「Marionetto」より 【印刷所】有限会社一光堂印刷

【表紙デザイン】前嶋のの 【本文デザイン】鷺谷憲樹

## ▼俳優養成と演出の両立

篠崎 ■ 演出をしていくときに俳優養成って考えますか。

たとえば僕は、子役を扱つたりするときには、演出状況だけじゃなく、この子にはこういうふうに言うとその後、育っていくかもしれない。演出作業しながら俳優養成作業するような、両方やつたりすることもあるんです。

「あ、これだな」って気がつく瞬間があるようを持つて行くつてのがある。ただ、それは、元々の身体のトレーニングとかができないと、それがやつぱり印象だけになっちゃって再現しづらくなる場合もあるし。」

**坂手** ■脚本の中に演出の意図がすでに入ってる意味で言うと、やつぱりファイフティ・ファイフティかもしれないですね。僕、蜷川幸雄さんの演出を見ても演出の8割くらいは設計図としてホンに書けることばかりだと思うんですよ。

**篠崎** ■あなたの場合は、演出的な要素よりは、どつちかというと作家的な要素のほうが大きいんじゃないですか。

人がやりやすいことや普段持っているギャラクターや柄を使ってしまふと、本人がそれでもう出来たんじゃないかなって誤解してしまうんですね。今は柄が生かされているだけで自覚的に獲得できていないんだよ、って伝えることにすごく手間がかかる場合がありますね。

たとえば「ここで情熱的になるんだ」とか決めちやえばそれは脚本があるのと一緒なので。人によって変えるつて部分がどこにあるはずで、そこに命があるとは思うんですね。ですから僕の場合、演出家と脚本家ってそんなに比例反比例はしなくて、やっぱりオリジナルの戯曲である「屋根裏」なんかのほうが演出力が必要とされますよね。ほかの誰もやつたことの無いことなんで。

**篠崎** 創劇団とか、フリーでやつてる人とか、いろんな役者さんがいて。考え方も作り方も、現場現場でまったく違つてくる。俳優という存在はなにも無くともできるんだけれども、やっぱり劇団の子飼いだつたら、そこで育てていける。でもそういうじやなくて、俳優やつていく場合には、俳優養成というのはきちっとやらないといけないと思つてるんですよ。



▼役者であるか演出家であるかを越えて

**篠崎** 大学の演劇教育だと、こういう本も読んで欲しいとか歴史も知つてほしいとかいろいろあるんだけども、やっぱり俳優というものがなにをすればいいかってのを絞つて、そこを中心で教育をやつたほうがいいんじゃないかなって、このごろ痛切に思つてゐるんです。全体を知つていくのは大事なんだけども、そこに時間を割くというのは個人でやつてほしいと。

**坂手** ■ 篠崎さん的には「どうぞ」との意附合いとしての、つまり、芝居ってのはただそのキャラクターを表現してるだけではなく、その作品を通して産むための、ひとつつの「心情」があるじゃないですか。その心情というものをどのようにやりとりするのかということをね、実際に理解するということが、俳優養成でいちばん必要な気がしてるんですよ。

本の解釈でやるやり方の人は、その本の解釈に自分の人生を重ねるつてやり方しか、たぶん無くなっちゃつて、いまおっしゃつた「演劇の全体」に対して自分はなんなのか、とか。僕らのグループは何に向かつてているのかという意識が、つまり、自覚的に演劇をやるのであれば演劇をやる。演出家や作家は役者総体についての関心がなくてはいけないだろうと。演出家は役者たちのことがわからなくていいとも限らない。わかつたほうがいいんですね俳優の感じ方とか、身体の言葉の仕組みがこうなつて出てくるんだとかをわかつてない演出家はなにやつたつて無理ですか。

逆に、役者であるが演出家であるかを起きて、劇を作っているところであるトレーニングをすると、あるワークショップに入つては作家も演出家も区別なくやつてゐるみたいなのもあつて、いいような気がしきすね。

**坂手** そういう意味ではまつたく僕もその問題を共有してて。つまり、自分の身体をちゃんと使えるって水準は必要だと思いますね。いま演劇というひとつの中に入ってきたと思ってる方だったらそのジャンル

だと自覚が乏しい人が多い気がしますね。  
でも、そういう人の中に、だからこそ出てくる変なものってのを期待  
したい面もあるんだけど。



リアのウンブリア州の合宿所で毎年3か月サマースクールやってるんでくるんですけど、そこで去年僕が1週間くらい教えるってことがあって。劇を作るってことはどういうことかってのを一緒に。いろんな国から来てる彼らがどんなことを感じるのか、僕も知りたい。僕もちゃんとモノをもつて、僕も返していくというような作り方をしていく。作家もいたのかな。まあ演出家のほうが多いんだけど、みんなで演じてもらって、作るということをやりましたね。それは非常に体験としておもしろかったです。俳優のための俳優講座っていうと僕はよくわかつているわけじゃないんですけど、劇を作るって形に対してはなんか、そういうふうにもできるんだな。

## ▼作家の文章が役者を育てる

**篠崎** ■僕は実は、僕が演劇を習ってきた経験からすると、むかしはどの人たちからとにかく「もつといろんなことを経験しろ」と言われてきた。つまり、それが演劇のひとつの糧になるんだ。いまこれだけやってきて思っているのは、たとえばね、経験しないことのほうが、イメージの中で経験する。稽古場あるいは舞台で経験するほうが劇的になる可能性が高いんじゃないのかって思うことがある。

**坂手** ■あ、日常の中で、ってことじゃないですか。

**篠崎** ■日當みんなこうやって生きてるじゃないですか。日常で経験してなきやこの劇的なところに入り込めないかつていうと、そうじゃない。そのイメージの世界の中にさえ入り込みさえすれば、そこで経験できるっていう。そのことは、経験、経験と来た中で変わってきたところなんですけど。

たとえば子役はもちろん経験はなにも無いんだけど、その劇的な状況の中でイメージを作るのは大人の役者よりもけつこう強いイメージが作れる。自分でこの本読んで、「ここはこういう世界でこうだ!」となるとバーツとそこで作り上げる。その中に入ってきて疑似体験するつてのがあるんですよ。

それはね、俳優養成の中ではけつこう重要な事かなつていま思つてるんですけどね。

**坂手** ■そうですね。ある種、体験になつてることが大事ですよね。演劇の場合は、いいものできたから見せましようつてんじやなくて、作つての側もその場で体験しないといけない。ものを感じないといけない。ひじょうに馬鹿馬鹿しくらい簡単なんだけど、お客様は俳優が感じていることを一緒に感じてるわけですね。俳優がリアルにきちんとちゃんと、自分にとつて意味のある手応えを持つてくれないと、やつぱりできませんよ。意識は透けて見えるんですよ。「俺は安定してやれって

本当に、劇的なもののイメージをしつかり作つた役者が  
どんどん成長する。

【篠崎光正】

るよ、俺の魅力わかるだろ」とか思つてゐる人はそういうふうに見えちゃうんですよ。どんなフレームでどう見せるかではなくて、これは私にとつてホントに大事なことなんだっていう確信があれば、そのほうが良いと違うんです。

**篠崎** ■そういうね、演劇的な状況で、劇的な中で経験していくことがね、普通の経験よりも速度が速いでしょ。今日稽古場で経験していることが単純に自分の人生の1ページになつていくわけで、その経験つてのは積み上がるてくると、普通の社会では経験できない、一般の人たちは経験の度合いが違つてくる。イメージの中でね。

だから僕は演出家がホントはリードしたほうがいいんだろうなとは思うんだけど、現実は、作家が書いている文章が役者を育てる。それに痛切に気がついてきた。

**坂手** ■どういうことですかね。

**篠崎** ■その文章が入つた役者は、その文章で考えるようになるから。

**坂手** ■ああ、なるほど。

**篠崎** ■だから役者がその言葉でぱっとイメージを作つて、そこで体験する。いままではね、演出家がなんとかそこを引っ張りあげたりとかいろいろなことをすれば変わつていくだろうと思つてたんだけれども、そうじゃない。

ここ30年やつてきて今つくづく思うのは、作家なんだよつてことなんです。作家が言葉を、たとえば台詞として与えてると。与えてる言葉の中からそいつは頭の中で作家の言葉の世界を作り出していくそのイメージの心を作り出すと。これがね、結果は、確実に、いい役者はいい作家の作品をね、何本やつたかによつて決まつてしまちゃうというのはね、思つうんです。

**坂手** ■なるほど。本をちゃんと自分のものにしたということが体験として重要で、その本がトンチンカンなものならそとはならない、というこ

**篠崎** ■ならない。だからね、本当に、劇的なもののイメージをしつかり作つた役者がどんどん成長する。そのためのものは言葉。

だからこのごろ考え方もはつきりしてきて、僕はもう演出家よりサ

ポート側にまわつて（笑）。で、この役者にはこう言わないのでちょっと放つといったほうがいいなとか、あるいはイメージを作るための別のア

イデアを出しちゃうとかいう形で。

イデアを出しちゃうとかいう形で。

だから（自分の役）相対化できる。まあ、自分のモノサシですね。それを演劇のためのものと考えてゐるんじやなくて、もともと、ある「モノサシ」を持つてると。

インドネシアにシアタークブールっていう、クブールつてお墓なんですが、夜にお墓で稽古して、そういう劇団があつて。そこにヤルディンつて役者がいて。彼は僕がオーディションして『南洋くじら部隊』といふ劇に2000年に出てもらつたんですけど、そのヤルディンつて輪タクの運転手なんです。輪タクの運転手やしながらシアタークブールの主力俳優なんですね。すごい肉体しているし、声も出るし、敏感だし、やっぱり、いろんなことがわかつて。それはつまり、シアタークブールの、

坂手 洋二 × 篠崎光正

いて、そういう人にサポートとか、添え木みたいにね。

僕はこういう考え方もしてて。なにかができるってのは達成できる能力とか達成できる世界を持つてるんじやなくて、邪魔しているものをやんなきやいいんです。ただ、すべきことをすればいいんです。すべきことを邪魔しているものを取り除いてあげるっていう作業が僕ら演出家の作業だつて思う場合もありますね。

でも本来は自分で気がつくこと。自分が自分で掴まないといけない。

言われてやることじゃないんだぞつて思う場合もありますね（笑）。や

りたいことをやるのが当たり前だと思つてゐるのに、やりたいことをやるつて構えて来ない人はなに言つても無駄じやないです。僕はやりたいことやつてる人にしか言葉はないよ、つてことにもなつちやうし。

「俳優」つていらないんですよ。劇をやつてる人が、もつと引いて言えば、「劇をやりたい人」がいる。「劇を必要としている人」がいる。「劇がなければ生きている手応えがない人」がいる。そういうふうに、俳優とか演劇はあるべきなんだけど、なんとなくそういう世界があつてなんとなくそのポジションにいて舞台に出てれば役者なのかといふと、そんなことはないんだからさ。

**篠崎** ■僕はね、師匠が千田是也なんで、彼に、お前はトラックの運転手が芝居をやるような世界を作つて何度も言つてたんです。若いちはウーンと思つてたんだけど、このごろはものすごくよくわかつて。つまりトラックを運転する職業を持ちながら芝居をやりたいと思う「思い」がどこにあるのか。先生の言い方を借りれば「演劇活動」と言つべきかもしれないけど。

**坂手** ■でも、そういうことですね。職業がどうこうじやなくて、その人がはじめから終わりまでちゃんとできることをたまたま持つて、そのことから（自分の役）相対化できる。まあ、自分のモノサシですね。

それを演劇のためのものと考えてゐるんじやなくて、もともと、ある「モノサシ」を持つてると。

だから（自分の役）相対化できる。まあ、自分のモノサシですね。それを演劇のためのものと考えてゐるんじやなくて、もともと、ある「モノサシ」を持つてると。

インドネシアにシアタークブールつていう、クブールつてお墓なんですが、夜にお墓で稽古して、そういう劇団があつて。そこにヤルディンつて役者がいて。彼は僕がオーディションして『南洋くじら部隊』といふ劇に2000年に出てもらつたんですけど、そのヤルディンつて輪タクの運転手なんです。輪タクの運転手やしながらシアタークブールの主力俳優なんですね。すごい肉体しているし、声も出るし、敏感だし、やっぱり、いろんなことがわかつて。それはつまり、シアタークブールの、



# 芝居が密になつた瞬間、全体が「つながつた」体験があると、そのことを俳優は忘れない。

【坂手洋二】



篠崎光正（しのざき みつまさ）——演出家。  
「ブンナよ、木からおりてこい」（芸術祭優秀賞受賞）  
ミュージカル「アニー」（1986～2000）  
「ドラム一発！」マッドマウス（芸術祭大賞の1作）  
演劇論・演技論にも関心を寄せ「篠崎光正演劇技術  
「魔法のレッスン」等。  
一般社団法人日本演出者協会理事。

——そういうのを積み重ねていって、つていう営みが、カンパニーの中で育てていくことであり、言葉で表現し得ないなにかに向かっていくことなんですね。

坂手■そうですね。それをおためごかしで「演劇つていいものだよ」とか「こうやつたら上手にできるよ」みたいなことだけに乗つかっていくといふことにはならないでしようから。それよりはもつと実質的なことですよね。共有する人を増やしていくしかない。

——本人が気づいていくためのきっかけみたいなものを細かくたくさん用意して、あとは本人が自覚的に気づいてくれるのを待つ。

坂手■つてことでしようかね。チャンスを逃さないことも大きいですね。できてはいたものが、そこですごく密になつたんです。密になつた瞬間に「つながつた」んですよ。新しいメンバーが何割か増えてる座組で同じ芝居、「屋根裏」やつてる中で、あっこでもっと新しい地点が見えたつて。ある程度つて水準はもちろんできるんだけど、本番を経た上の時こないだもウクライナで公演して、移動の都合で何日か空いたんですけど、どうしても僕は気に入らなくて稽古しまくったんです。形としてはできてはいたものが、そこですごく密になつたんです。密になつた瞬間に「つながつた」んですよ。新しいメンバーが何割か増えてる座組で同じ芝居、「屋根裏」やつてる中で、あっこでもっと新しい地点が見えたつて。ある程度つて水準はもちろんできるんだけど、本番を経た上の時

間の中で、やっぱりここまでやらなきやいけないんだって。

それはでも、頭ではわかつて、言葉でも同じことずっと言つてるんだけど、全体と部分がトータルにイメージできた瞬間にボーンと行く場合が多いですね。

——それは座組のみんなも「あ、今まできたね」つて。

坂手■知つてますね。知つてるからひじょうに幸せになりますよね。それはもう、劇場がそうなつてゐるわけです。それまでもそんなにダメじゃ

で育てていくことであり、言葉で表現し得ないなにかに向かっていくことなんですね。

坂手■そうですね。それをおためごかしで「演劇つていいものだよ」とか「こうやつたら上手にできるよ」みたいなことだけに乗つかっていくといふことにはならないでしようから。それよりはもつと実質的なことですよね。共有する人を増やしていくしかない。

——本人が気づいていくためのきっかけみたいなものを細かくたくさん用意して、あとは本人が自覚的に気づいてくれるのを待つ。

坂手■つてことでしようかね。チャンスを逃さないことも大きいですね。できてはいたものが、そこですごく密になつたんです。密になつた瞬間に「つながつた」んですよ。新しいメンバーが何割か増えてる座組で同じ芝居、「屋根裏」やつてる中で、あっこでもっと新しい地点が見えたつて。ある程度つて水準はもちろんできるんだけど、本番を経た上の時

間の中で、やっぱりここまでやらなきやいけないんだって。

それはでも、頭ではわかつて、言葉でも同じことずっと言つてるん

だけ。ある程度つて水準はもちろんできるんだけど、本番を経た上の時

間の中で、やっぱりここまでやらなきやいけないんだって。

やつぱり芝居をやればいいってだけじゃなくて、育てなきやいけない。やつぱり観客を育てていかなかつたら自分たちはなんにもなんないよつてことが、演劇の中でも起きくるし、演出家はそのことにちゃんと目を向けてく必要があつて。

いい芝居をやればいいってだけじゃなくて、育てなきやいけない。

坂手■それはもう、結果的なことではあるんだけど、5人いる中でひとり、この声が出ないつてときに、そのためにはどうするかを、それはやつぱりやるじやないです。

ないんだけど、あつここまでもつといけるはずなんだつていうことをね、わかるわけですよ。

そういう体験があると、俳優は忘れないじやないです。あれだから、あれができたんだからできないはずがない」つて。それも大変だ事なことで、財産にはなるんじやないですかな。

——ここを目指せつて引っ張つてつたわけじゃなくて、自然にすつと上がつて「あ、ここだつたんだ」とみんなが感じると。それがあつら、あれができたんだからできないはずがない」つて。でも、でききれないところがあるんです。どつかまだ塗つていない「のりしる」があるんです。日々努力して、やっぱりどうしてもムラがあるじゃないですか。そのムラがピーンつて消えるんですね。そういうときはあるんですね。でも実際にできないことはできないわけで。まあ、日々勉強というか（笑）。

ちゃんと仕込んでないと無理なんですよ。たまたまできた、じゃないんですよ。仕込んでることがあつた上で、ある瞬間を逃さないつての努力して、やつぱりどうしてもムラがあるじゃないですか。そのムラがピーンつて消えるんですね。そういうときはあるんですね。でも実際にできないことはできないわけで。まあ、日々勉強というか（笑）。

——ここを目指せつて引っ張つてつた同じことできるよと思う。

——逆に、いろんなところ行つて講座をワークショップ的にいくつか体験することの価値もあると思うんですね。

一般の方をワークショップで「俳優養成」することと、日々「戦力」として俳優に成長を……ちょっとそこくらいは自分で鍛えてくれという人は、それですね（笑）。俳優養成つて言葉 자체が難しいんですけどね。

——養成の目的が場所や場合によつて違うんですね。演出の方が言う俳優養成は演出と切り分けられないんですね。

坂手■腹式呼吸をね、どつかの演劇学校出てもできない子、いっぱいいるわけよね。腹式呼吸をいちからやりましょうつていうこともできますよね。それでちょっとよくなつたり気がついたりすることもあるかもしねないけど、それよりは野つ原でとにかくでつかい声でやる芝居を一本作つたほうが、あつていう間に直るかもしれない。

でも直つたことが、ちゃんとメソッドとして丁寧に教えてもらつた体験があることと、ぶれないとか変に歪まないとかも、ある。だけど、それはやつぱり本人の欲望とか衝動があつて、それは教えられるものではないので、必要ない人はやらないでいいんですよね。

演劇が必要じゃない人は演劇やらないでいいじゃないですか。それが眞実のような気がしてしょうがないですね。演劇はいいことだからやりなさいとか、役に立つからやりなさいとか、人を騙してお金取つちゃいけないわけですよ（一同爆笑）。

対談：俳優の育て方、とは言つても。

坂手洋二×篠崎光正

——この子が良くなれば全員が良くなる、全員が良くなればこの子も良くなるということで言うと、俳優養成や演出つていうのは、コインの裏表みたいなものですか、それとも別個なものですか。

篠崎■ただどね、両方はあるけれども、演出つてのときにそんな余裕は無いつて（笑）。「この舞台を！」つてのが最初にあるからね。どちらもつて考えてる余裕はちょっと無いつて感じがするけどね。

坂手■つていうか俳優養成つていうのはね、取り分けけて考えてないですよ。一般的なね、俳優養成の方法論、最低限これだけはつてのはいつぱいあるけど、ケースバイケースのような気はしますね。

作品を作つていく中でその一個をちゃんと作りきつたつて体験の中から絶対ファイードバックできるから、まずそこに向かつていくつてことにならないでよね（笑）。

【了】

# 演劇大学 in 旭川

2013年6月19日-23日

会場：旭川大学、旭川明成高等学校、旭川市民活動交流センター CoCode (ココデ)

講師：青井陽治、羊屋白玉、マキノノゾミ、長塚圭史、田畠真希、本間愛之、OK

担当：森ただひろ／企画制作：一般社団法人日本演出者協会、企画運営：演劇大学in旭川実行委員会

主催：文化庁／一般社団法人日本演出者協会、共催：旭川大学、NPO法人旭山動物園くわい

後援：旭川市、旭川市教育委員会、北海道文化財団、北海道新聞旭川社、北海道経済

メディア：あさひかわ、株式会社ネットワーク

文化庁委託事業「平成25年度次文化を創造する新進芸術家育成事業」

## 演劇とは何ぞや？ もちろん十人十色の 演価値観が交差する世界ではあります

が、旭川で3年間行われた演劇大学は正にそ

の一点を抉ったものでした。『創造力』、『人生

感』、『表現力』、『発想力』、『人に潜む善惡』そ

して、『価値観の摺り合わせから生まれる自分

発掘の大切さをワークショップ、講座から学

びました。小学生から6年配の方まで受講で

きる企画を練り、演劇の楽しさを少しでも伝

えたかった。今回も行った高校訪問WS（青

井氏）では旭川明成高校にて市内6校の演劇

部員が五感と想像力をフルに使ってのインプ

ロと表現から生まれるボディーランゲージを

楽しく描いてくれました。マキノ氏は「横濱

短篇ホテル」のテキストを分析し、旭川の役

者達と本読みを行って下さいました。また長

塚氏は2日間に渡つてシアターゲームと舞台

「南部高速道路」をWS化した人間（自分）

の根源にある資質を今一度理解する刺激的な

世界を。田畠氏は旭山動物園で子供達（小学

生）に沢山の生命の大切さを感じてもらいな

がら動物を表現するダンスを作つて頂きまし

た。そして、最終日は本間氏に上川アイヌの

伝承文化を分かりやすく伝えてもらい、羊屋

氏が司会したロケーさん、マレウレウさんの

アイヌの伝統歌「ウポポ」の再生をテーマに

ライブ。一人芝居の舞香氏は知里幸恵の自ら

歌つた謡を舞台化し舞台表現の素晴らしさ



# 演劇大学 in こおりやま

2013年7月18日-21日

会場：郡山市民文化センター

講師：桂歌若、藤田傳、公義徳

担当：青木淑子

企画制作：一般社団法人日本演出者協会

主催：文化庁

一般社団法人日本演出者協会、共催：郡山市

郡山市教育委員会

後援：福島県高等演劇連盟

文化庁委託事業「平成25年度次文化を創造する新進芸術家育成事業」

## 7月18日から21日までの4日間、福島 県郡山市で演劇大学を開催しました。

2011年7月に、震災の傷跡が生々しく残

る中での開催は、「演劇」が人に与える力を

実証するものがありました。3年目の今年の

開催は、「ふくしま」を考えるものでした。

いといつ実行委員会の趣旨に、主催である文

化庁と日本演出者協会が賛同し、20日（土）

の午後、「現在の福島」をテーマにした地元

の劇団（4劇団）の上演をもとに、「福島を

考えていく」というシンポジウムが開かれ

ました。「演劇」という表現方法で、現在の

福島をどう描けるのか、また何を描きたいと

思うのか……パネラーとして並んだ演出家、

俳優、劇作家、演劇評論家の諸氏は、終始「演

劇としての舞台」のあり方（評価）や演出・

作劇の論を繰り広げ、「福島」がどう語られる

のか、演劇人はどのように「福島」を語る

のか……楽しみに集まつた参加者からは「残

念」との声も聞かれました。3年経つても何

一つ進歩も収束もしていない「福島」をどう

どうえるかは、演劇人にとっても目をそらす

ことの出来ない大きなテーマ。私たち実行委

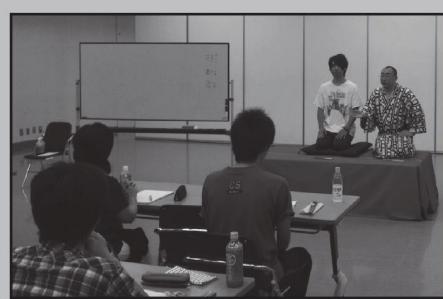
員会は、今後も「福島」に生きる演劇人とし

てこのテーマを追い続けようと決意を新たに

しました。

講座に關しては、3回目の今回は、「落語」

（桂歌若）「歌舞伎で遊ぼう」（藤田傳）といつ



ビューオーをし、初回メンバーである野崎美子、和田喜夫日本演出者協会理事長と共に、充実した4日間を作ることができました。

特別講師の斎藤晴彦氏の「朗読」も斬新な指導に受講生は感動していました。

地元の専門学校（声優科）の学生、高校の演劇部の生徒など、若い世代も多数参加し、世代間交流も活発に行われていました。

3年目を終えたところで、「演劇大学」も今年度で終わりますが、演劇を通してでき

たネットワークを、今後も継続していくため、

次年度も福島に郡山に（次年度は「川内村」）を考えていますが……）全国からたくさんの方に集まつていただきたいと、実行委員会は

知恵を絞っています。

演劇大学inこおりやまの実施と成功に尽力

いたいただいた関係者の皆様に心から感謝いた

します。ありがとうございました。



# 台湾特集

## 台湾現代演劇を知り、その魅力を探る3日間！

「台湾現代演劇を知り、その魅力を探る」のがその目的である。第1日目は韋以丞氏による台湾演劇の歴史と現状を知るためのレクチャーで、日本統治下での台湾文化の状況（台湾語による現代演劇の上演が禁止されていたことなど）、1945年以降の台湾の複雑な政治状況と現代演劇との関係などもかなり詳しく紹介された。第2日目は台湾現代作品『Mumble Jumble 亂民全講』頼聰川・韋以丞等による集団創作（邦題『みんな目茶苦茶』）のドラマリー・ティングをおこなった。『乱民全講』のDVDと「劇団自由人会」と「劇団太陽族」と韋以丞によるコラボレーションによるリーディング上演である。『乱民全講』は全24のショートストーリーで構成されている。「劇団太陽族」はその中から3シーンの上演（演出・岩崎正裕と俳優2人）、「劇団自由人会」もその中から3シーンを上演し（演出・杉野じんべえと俳優3人）、その他のシーンは台湾の劇団「表演工作坊」が上演したDVDの紹介と、韋以丞による作品解説を行った。最終日は韋以丞及びパネラーとして台湾演劇研究家の瀬戸宏氏が参加、岩崎正裕を中心して司会を司り、森本景文氏でフリーディスカッションを行った。我々は台湾演劇の実情を本当に知らないことを改めて感じた。瀬戸宏氏から今日の台湾演劇の状況の補足説明がされ、他にも「多才な韋以丞氏が今後どのような方向に進もうとしているのだろうか?」という演劇人の直面する問題に率直な質問が投げかけられたりした。特集終了後、「此の作品を日本語に翻訳したら、若い劇団員が研究発表などをを行うときに使用出来る」という意見が寄せられ、又「台湾現代演劇作品は訳泉凜『紅い鼻』が有るぐらいなので、翻訳は意義がある」という何人かの要望も有った事は、今回の特集が成功裏に終わつたことの証明だ。



2013年1月26日(土) 28日  
会場：元町ブチアワード、船戸元町劇場4階アタシオ  
講師：韋山一郎、イシヨウ、船戸元町劇場4階アタシオ  
担当者：坂手日暮義、田中孝敬、井之川淳、森本良義、金子順子、山本太郎  
主催・文化庁、一般社団法人日本演芸者協会  
制作・一般社団法人日本演芸者協会  
文化庁委託事業  
平成25年度次代の文化を継承する新進芸術家育成事業

文 大洪慶子、梅尾亮子（翻訳）、坂手白登美（翻訳）  
つみ  
著者協会／協力・兵庫県劇団協議会、神戸学院大学地域研究センター、劇団四紹介会

2013年8月5日～8月11  
会場…芸能花伝舎(東京)  
講師…オリガ・ニコラエワナ  
　　ヴィクトル・ニジエリ  
通訳…上世博及／担当者…島  
主催…文化庁／一般社団法人  
文化庁委託事業「平成25年度

・ボイツォーワ（レーチ）  
スコイ（舞台動作・アシstant）  
守辰明、杉山剛義  
日本演出者協会／制作・一般社団法人日本演出者協会事業  
次代の文化を創造する新進芸術家育成事業

1

かを常に捉えながら、必要な箇所だけを最小限の力でコントロールすることに重点を置き、より的確に、より美しく、舞台上で自らの身体を完全に支配出来るようになることを目指しました。

レーチでは、呼吸と共鳴を意識し、自分の中にある音を解放することを大切にした。様々な架空の状況に『もしも私がこんな状況に立たされたとしたら』と身を置き、そこからどんな声や言葉が生まれてくるのかを発見したり、対象との空間的距離・方向性・関係性などの違いが声の強弱や質などにどのように影響を与えるのかを知り、それを意識的に使い分けられるようになることを目標とした。

グループワークでは、『おかしな人間の夢』題として与え、それに対し各グループで試行と創作発表を重ねた。

いずれのワークでも共通して重要なにされたことは、前もってこうしようとは意識せず自らの中から自然に生まれてくるのをこそ大切にすること、そして外的的な型ではなく「何を目的に何をしているのか? という内面的な行動」でした。

レーチと舞台動作という訓練法の一つに集中取り組んだワークショットではあつたがその礎として常に存在しているスターラフスキーリー・システムという方法論と舞台創造の有効な結びつきを強く実感出来たことがとても印象的でした。



## 韓国特集 マダンノリを知る・やつてみる

2013年8月23日～25日（松山、8月27日～29日（金沢）  
 会場：シーアターネ（松山）、金沢21世紀美術館シアター1～21  
 講師：キム・ソンニヨン、チョン・ジュンヨ、金子重子、岡井直道、洪明花、林英樹  
 通訳：洪明花、担当者：森本實、翁美雪子、岡井直道、洪明花、林英樹  
 文化庁委託事業「平成25年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」



「」の意味。韓国の伝統芸能を活かしながら現代の演劇として再生する試みであると言えます。ソン氏が1981年に演劇概念を確立し、劇団美醜で実践されて来られた表現形式で、多くの観客の熱い支持を集めてきたものです。

韓国の伝統芸能にはタルチュム（仮面劇）、パンソリ、人形劇、巫女による芸能があることですが、タルチュムは笑劇スタイルで権力者を批判する被抑圧者、庶民階級の社会批判の武器でもあったとのこと。民衆劇としての伝統芸能を持つエネルギー、歌舞の技芸、批判精神を活かしたマダンノリは、民主化前の韓国では、政治に対する不満をしばしば諷刺し滑稽に描いて、それを見た学生たちがデモへ向かった、とキム氏はレクチャーで語りました。

発表では、タルチュムのリズムや動作を基盤に、参加者が創作した即興場面が加わり、しばしば滑稽な動作、諷刺的なことばが発せられ、エネルギーとユーモアに満ち溢れた舞台となりました。

キム氏にとって、松山、金沢はいずれも初めての地で、地元担当者、スタッフの暖かい受け入れが何より相互の交流を濃密なものにしたのではないか。エネルギーとユーモアに満ち溢れた舞臺」としてさらに魅力的な企画として練り上げて行きたい。

マダンノリのマダンとは「広場」、ノリは「遊

## ドイツ特集 マルコ・シコトアーマン SHOWCASE

2013年9月24日～29日（東京、10月1日～6日（福岡）  
 会場：芸能文化会館（東京）、PAPEROビル（福岡市民芸術館）（福岡）  
 講師：マルコ・シコトアーマン、レオチャーダースト・内野豊（東京）、日比野路（福岡）  
 通訳：黒田容子、三ツ石祐子、エヴァリン・ソグランケン（東京）、シユト・トーホフ・比佐子（福岡）  
 招待者：田中孝次（佐々木吉巳）、大庭義慶（川口典成（東京）、山田恵理香（高橋知美（福岡）  
 文化庁委託事業「平成25年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」協力：ドイツ文化センター

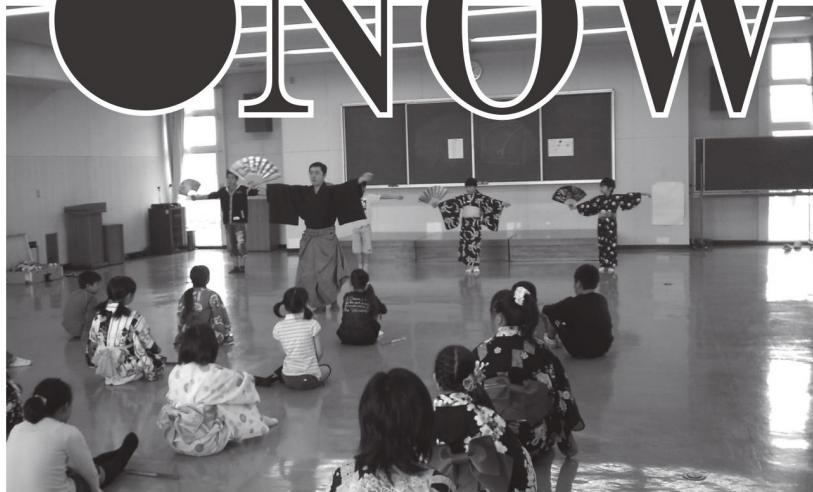
### 国際演劇交流セミナーでのブレーンス

トーミング企画は3年目となり、今回はドイツの新進気鋭の演出家マルコ・シコトアーマン氏を招聘して行った。一つのテキストを題材に、上演を前提として参加者同士で話し合いを繰り返すことで、演出家としての「読解力」「言語力」「内省力」を鍛えることを目標とする企画で、今年は、東京ではユージン・オニール『夜への長い旅路』、福岡ではアーヴィング・ミラー『セールスマンの死』をテキストに選択した。前回、ギリシア喜劇を題材に用いた際に、ギリシア喜劇とはなにか、といふまでの前提確認や知識確認に多くの時間を



割かねばならなかつた反省を踏まえ、近代戯曲のなかでもボピュラーな戯曲で、近代戯曲の最大の関心ともいえる「家族」を描いた作品を選ぶことで知識的トリビアに陥ることなく、参加者それぞれがテキストを読み、発言を行う時の自己批評性が高まることを目指した。東京、福岡とともに、普段は演出業を行っているわけではない俳優や研究者が数多く参加したことで、こだわりどころがそれ特有で、テキストの言葉にこだわる人、登場人物の出自にこだわる人、あるいは上演方法にこだわる人、さまざまな角度からの議論が提出され、ブレーンストーミング企画ならではの、いい意味での混沌状態が巻き起こった。お互いの演劇観を思考・試行するよい機会になつたと感じた。今回招聘したマルコ・シコトアーマン氏によるレクチャーは、「劇場の死」というタイトルで、「いま演劇をなぜやつているのか？」という根本的かつ挑発的なレクチャーであった。国際部の冊子に掲載される予定であるが、どのように応答していくのかが問われているように思う。ブレーンストーミング企画は今年で一旦休止となるが、今後何から形でまた実現していきたいと実行委員一同考えている。演出家同士で「思考・試行する場」としてさらに魅力的な企画として練り上げて行きたい。

# 東北演劇 NOW



震災後、東北演劇状況の一番の変化は、様々なアーティストとのコラボレーションがはじまったことだろうか。

神楽や郷土、古典芸能も積極的だ。住民参加型で震災の体験を伝える企画も多い。心の復興、東北の歴史、今がテーマだ。そして「劇場から飛び出す」活動も目立つ。カバンひとつ、ワゴン車一台で出張できるパフォーマンス。また、小中学校、児童劇団でのワークショップも自治体や文化庁の支援でかなりの数だ。

今回は宮城、福島を拠点に活動する私の友人お三方を紹介します。音楽、ダンス、言葉のスペシャリストたちがコラボするユニークな活動もあります。

〈渡部ギュウ〉

※写真は宮城南部の地域児童劇団AZ9ジュニア・アクターズの能ワークショップ(2012年秋)

## 震災から 流れた時間

なかじょうのぶ(宮城)

震災から半年、1年と時間の節目ごとに電話で答えたり、文章を書いている。言つてることは経過と感想みたいなモノ。自分がいるつてことが、まだ整理できていない。日常は便利な方がよいとギコチなく居座っている。

省エネの製品を探しているようだ。海へ10分で行けるところに住みたいと思っているようだ。自分がいるつてことが、まだ整理できていない。日常は便利な方がよいとギコチなく居座っている。

3月11日の次の日はポケットの中にあるはずだ。自身が信用できない。

「日本に原発を」と声高に言いい続け、GOサインを出した人々も生き続けているはずだ。防波堤の高さを経済で決めた人々も生き続けているはずだ。

「何が」とは言えないが、疑い、立ち止まらなければ、意志の言葉、子供の頬を包む力。流れる時間が日常ではない。

（なかじょうのぶ独人芝居事務所）宮城県栗原市地元劇団「三ヵ年計画」

2011年3月11日旗揚げ公演準備中に震災に遭遇。6か月後改めて旗揚げ「見上げれば故郷は見えたか」。2013年7月「異へー其の式」三ヵ年計画上演。

日本中国韓国共同制作作品「祝言」11月

上海、仙台、東京、1月北京上演。口々今出演中。

日本中国韓国共同制作作品「祝言」11月

上海、仙台、東京、1月北京上演。口々今出演中。

## 音楽の仕事 ／演劇の仕事

伊藤み弥(宮城)

仙台で演劇の周辺をうろつきながら、身過ぎ世過ぎにさまざまな仕事やつてきた。

現在は「一般財団法人音楽の力による復興センター・東北」というクラシック音楽系の震災復興支援団体でコーディネーターを務める。

主な仕事は、被災した方々の音楽、子供の頬を包む力。流れるな演奏会を届けること。仮設住

宅、学校、寺、病院その他、乞われるままにどこへでも赴く。音楽家たちはリクエストに応えて美空ひばりも唱歌も演奏する。聴衆は旋律を透かして思い出を見る。旋律は纏れて絡まつた感情の糸を解きほぐす。涙と笑顔と歌声が会場にさざめく。演劇にはできない音楽の力を実感する一方で、『故郷』や『青葉城恋唄』の一節に耳を塞ぐ人の姿も見る。「この歌はつらすぎる」と彼らがいう。「当事者じやない人はわからないよね」と。

不慣れな仕事に手一杯で演劇と縁のなかつたこの1年だが、やりたいことも出て来た。彼らの言葉の中に萌す物語（それらはさもない思い出話の断片や、時に怪談として表れる）を何らかの形にしたいと思うのだ。

おそらく舞台作品にはならないがしかし、多くの被災者に共通する「アノ人ガ生キティタコトヲ忘レナイデ」という強烈な願いと祈りと怖れに応えるのは、演劇の仕事だと私は思つてゐる。

# 第9回 日本の近代戯曲研修セミナー in 東京 久保栄『火山灰地』を読む！

「リアリズム演劇としての『火山灰地』の新しさ」「『火山灰地』にみる内地延長主義との現在」

## 「ロメオ・パラ ディツソ」

第9回目となる「日本の近代戯曲研修セ

「第一部」演出者 瓜生正美／「第一部」演出者 鈴木アツト

大信ペリカン（福島）

梅原宏吉さんのお二人をお呼びして、お話を伺った。井上さんからは、「火山灰地」は「社会主義リアリズム」ではなく「反資本主義リアリズム」であることを始め、久保栄にとつての

筋を会場に配布して、観客がストーリーを追って行く手助けをし、会場全体で『火山出地』という作品を読みながら、また、聞きながら、そして考える、そういう空間になつた。シンポジウムでは、研修日初日には、ゲストの方の話を発展させ、久保栄の「社会経済的考察」の重要性を基盤とし、久保栄の目指したもの、その可能性と、またその限界についてトークをした。「大山の頂」へ向けた貴重な研修となつた。ひとつ残念なことは、発表当日の参加者が少なかつたことで、こちらの宣伝不足や企画の立て方など差えさせられた。協会員の方々の多くのご参加をぜひお願いしたい。

第9回田となる「日本の近代戯曲研修セミナー in 東京」では、久保栄『火山灰地』をとりあげた。1937～38年に発表されたこの作品は、周知の通り、上演すればおそらく7時間以上、キャストは総勢50人は超える作品である。企画委員としては「そびえ立つ大山の頂へよじ登る」気持ちで選んだ。今までは基本的に、2チームに別れて別々の作品を扱っていたが、今回は第一部と第二部とをそれぞれ、瓜生正美と鈴木アツトとが演出を担当し、キャストを含めて、16人を1チームとして『火山灰地』に取り組んだ。研修日初日には、シンポジウムゲストである演劇研究者の井上理恵さん、文化政策研究者の

「リアリズム」の意味を巡って話があり、梅原さんからは、「火山灰地」に見られるドリツ表現主義の影響や「火山灰地」執筆と同時に起こったプロット、ルカーチらの表現主義論争の話を伺い、その後の研修への大きな刺激となつた。リーディング発表にむけてテキストレジ、主にカット作業を行つていつたが、その作業を通じて、久保のドラマツルギーや伏線の筋が明瞭に見えてくる経験は思わず収穫であったと言えよう。研修参加者全員が「火山灰地」に食らいつき、さまざまなかつ経験や年齢の研修参加者がそれぞれの立場から意見を出し合い、戯曲を読み解こうと努めていた。リーディング発表では、配役表や粗

震災を契機に「福島をもつと盛り上げたい」と日本全国から集まつた30人の男たちと一本の芝居を作つた。福島に100年続く文化の創造を目指す。原作: 長谷川洋一

続く文化の創造を目指し旗揚げされたロメオという集団の旗揚げ公演である。原発事故でネガティブイメージを背負った福島のシビックプライドを取り戻そうとする企画で、遠方からの参加者は「ロメオ城」と名づけられた寮で共同生活を送りながら稽古を行う。

ほとんどの参加者がダンスや音楽の経験者で芝居は初めて。

劇の音楽を支えたのは、参加者が奏でるヒューマンビートボックスのリズムであつた。ヒューマンビートボックスというのは口だけでドラムやパークッシュションの音を奏でる技法である。願わくば本作のハダカのビートが将来のこの町の文化へと育つてほしい。

ンの音を奏てる技法である。願わくば本作のハダカのビートが将来のこの町の文化へと育つてほしい。

〈2011年以降の作・演出作品〉  
11年6月・9月、12年1月・3月・11月

12年9月・10月  
キヨウド町グローバリズム行進曲  
13年5月・6月

白鳥の歌（作・チエーホフ）

近代戯曲研修セミナー  
(報告:川口典成)

筋を会場に配布して、観客がストーリーを追って行く手助けをし、会場全体で『火山出地』という作品を読みながら、また、聞きながら、そして考える、そういう空間になつた。シンポジウムでは、研修日初日には、ゲストの方の話を発展させ、久保栄の「社会経済的考察」の重要性を基盤とし、久保栄の目指したもの、その可能性と、またその限界についてトークをした。「大山の頂」へ向けた貴重な研修となつた。ひとつ残念なことは、発表当日の参加者が少なかつたことで、こちらの宣伝不足や企画の立て方など差えさせられた。協会員の方々の多くのご参加をぜひお願いしたい。

出来上がった物語のタイトルは『ロメオバラディイッソ』。夢破れたバンドメンバーがひょんなことから2万年後の世界にタイムスリップし、そこで音楽と踊りを愛する「ロメオ」に出会い



ばれたことは、まさに幸運でしょう。

劇団代表である若松了氏の意向もあり、いかに地元と繋がるか、

で劇団員が取材したものに基に若松氏を中心に作劇したり、広く関西演劇人から出演者を公募してコラボレーションするという西宮芸術文化センターでの本公演上演形態も、恒例となっていました。

長く続いているピッコロ・ファミリー劇場も、地元の子供たちを出演者として公募して共に創る企画として、ここ数年の約束となっています。

私、島守としては、30年を数えるピッコロ演劇学校の研究科を担当して5年目、ひとクラスに30人近い学生が急増していることも、近年にはなかつた変化だと思します。来年で劇団創立20周年を迎える。そうした中で、これから演劇を目指す人たちの足がかりとして、ピッコロ演劇学校、劇団、劇場が役割を果たせたらと考えます。

課題として、さらに深めるためには、まず関西で演劇人が活動する環境とサポート、他地域との連携、つまり他の劇団や演劇学校との繋がりそのものを深めること、そして、演劇好き以外の地元の観客への訴求力が、まさにこれから試されていくのだと思います。

## 三重一

「三重の水になじむ」

油田 晃

2013年、三重県伊勢市にある伊勢神宮では20年に一度の社殿などを作り替える「式年遷宮」が行われており、よいよ大詰めを迎える。

三重県の演劇状況は、県庁所在地である津市を中心に、様々な演劇公演が開催されているが、その多くが滞在型による演劇製作であったことは特筆すべき事であるよう思われる。

24時間の滞在製作が可能で全国の公ホールの中でも話題となっている三重県文化会館では、今年度の上半期に、柿喰う客・劇団ジャブジャバーキット・ハイバイ・劇団野の上などが、上演に向けておよそ一週間近い劇場滞在を行った。

三重県文化会館と同じ津市にある民間劇場・津あけぼの座でも滞在型製作を実施。上演作品に坂口修「ひとり芝居「走れメロス」、市民との演劇製作「スピリッツ オブ ジョン・シルバー」などがあげられる。

滞在製作により劇場との親和性を高めてもらうだけでなく、滞在中にワークショップなどのアクトリーチ活動を実施してもらうことで、演劇の魅力を知る機会を提供している。

「町に演劇があるということ」の大切さを、地味ではあるが、理解してもうつ日々が続いている。

一般社団法人日本演出者協会

# 事業担当者名簿

2013年10月現在

子、木嶋茂雄、田中孝弥、棚瀬美幸、

椋平淳、森本景文、山口浩章／東

海／鹿目由紀、菊本健郎、齋藤敏明、

竹内菊、はせひろいち、トリエユ

ウスケ／熊本／龜井純太郎、山

南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

平尾麻衣子、三谷麻里子、緑川憲仁／関西／木嶋茂雄、田中孝弥

／東海／ほりみか／新潟／井

上ほーりん／京都／松宮信男／

福岡／糸山裕子

子、木嶋茂雄、田中孝弥、棚瀬美幸、

椋平淳、森本景文、山口浩章／東

海／鹿目由紀、菊本健郎、齋藤敏明、

竹内菊、はせひろいち、トリエユ

ウスケ／熊本／龜井純太郎、山

南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

香／南純平／仙台／渡部ギュウ／札

幌／清水友陽／福岡／山田恵理

幌／清水友陽／福岡／山田恵理



# 部会だより

## 事業部

今年度もたくさんの都市で「演劇大学」が開催されています。3年間の集大成となった旭川(6月)・郡山(7月)・福岡(9月)。それぞれの地域に合ったテーマや方法を工夫しています。

「若手演出家コンクール」6月末に締め切り、今年度は80名を超える応募となりました。15名が一次審査を通過し、これから12月にかけて二次審査が行われます。

「近代戯曲セミナー」が9月に東京でありました。今回は久保栄について2回に分けて学びました。

## 国際部

(小林七緒)

今年度上半期の国際部は7月に「台湾特集」、8月に「ロシア特集」「韓国特集」、そして9月下旬から10月上旬にかけて「ドイツ特集」と、ほぼ毎月セミナーを開催するという、国際部としては非常に活動盛んな日々を過ごした。ここまで活動を振り返って「国際演劇交流セミナー」の成果として感じられることは、ますます企画を立ち上げ運営していくことが定着しつつあるということである。

「台湾特集」は、はじめて神戸で開

催、「韓国特集」は東京で企画したものを松山・金沢で開催、「ドイツ特集」は東京と福岡で開催された。各地域の担当者の努力によりどのセミナーも盛況であったようだ。

これらのセミナーの特徴として、このところセミナーのテーマとなつていた「演出」スキルの向上に加え、「身体」についてのワークショップが再び加えられた。その傾向には理由は様々あるだろうが、「身体ワークショップ」は参加希望者を集めやすく、地方での開催に向いているといふことが考えられる。

「ロシア特集」は、東京の芸能伝舍で猛暑の8月上旬に連日10時間と長い長時間にわたって行われた。

今年で3年目を迎えた「フレーン・ストーミング」(ドイツ特集)も6日間、参加者が討論を重ね、「演出プラン」を練り上げていくという刺激的な試みだが、今年は企画者のセミナー進行にも成長が見られ、充実した討論が展開されたようと思える。

「韓国特集」は、講師と通訳が非常に濃密な準備をしたので、レクチャー・ワークショップにおいて内容が受講者に的確に伝わったようだ。福岡と韓国とのつながりは強いので、今後の展開が楽しみである。(篠本賢一)

## 広報部

協会が新しい体制になり、一般社

団法人として新たにスタートしました。また、選挙の年にあたり理事も新たに選出、協会の活動も活発に展開することが予想され、広報部の活動が一際重要なつとめました。文字通り、広報する内容が増えていくことになり、また、これまでと異なることも多く、そのあたりをじつくりと腰を据えて広報して行きたいと思います。協会の役割は幅広く日本の演出者のあらゆる活動を網羅していますが、演出者の多くが演出活動の一方で演劇教育を担っている現実があります。その教育場所も様々ですが、広報部としては、これからは演劇教育も広報していく時代に入つていくかもしれません。新しい情報が次々と生まれ、広がりを見せ始めた演出家の世界。新旧の交流が少ないこの演出家の世界で、協会員に正確な情報を送り、協会員同士の横の繋がりに協力する体制づくりを、広報部一同細胞ですが、努力していく所存です。記念すべき新団体としての最初の協会誌「D」! いつまでも愛読していただけるよう願っております。(篠崎光正)

## 法務部

先般、文部科学大臣が10年間横ばいの文化庁予算を2020年までに倍増したいとの新聞記事を読みました。その意向を反映してか、今年度の文化庁の概算要求は例年前年比5%ほどの増額要求なのに、1%も増額して要求しています。新事業項

目を増やしての要求ですから、必ずしも演劇への支援が大幅に増えたわけではありませんが、2020年東京でのオリンピック開催が決まり、文化支援の仕組みやあり方が変わりつつあります。法務部主催で一度勉強会を開催したいと考えています。

## 地域交流部

(西川信廣)

この国の経済優先の政策から最も遠い地平に本来、演劇の自由さは「ある」のだ。せめて芝居者は1パーセント(富裕層)の側に立つことなく9パーセント(ビンボ一人)の日々、自主規制し、従順に、体制に骨抜きにされつつある市民の側に立つて様々な地域の演劇人と真摯に交流したいものだ。

一般社団法人になつて地域交流部は「新規事業部」という理事長、副理事長主導の「夢企画部」になつて様々な事業をやつていこうと思つてゐる。夢と熱意あふれる若手運営部員を緊急に募集しています。わたしはこの13年間、年に何回かの海外公演をしている。二ッポンもまた世界の一地域でしかない。愚にもつかない偏狭なナショナリズムを超えて、ふらりと旅を続けましょう。それが私達の出自である「河原者」という名の「自由人」の証なのだから。

つき、「7年後のオリンピック誘致を成功させ、再びのバブルの悪夢に躍つている。消費税増税の次は、国民の自由と権利を骨抜きにする秘密保護法案、積極的平和主義といふ名の「戦争をしたい国」への準備、憲法改悪

いる?

(流山児祥)



育の問題が大きく、機会があれば働きかけていますが……みんな打たれ弱いのです。注意したつもりが「怒られた」と勘違いして萎縮してしまったことも……。そうなると私の言葉が届かず困るのは私なので、声を荒げずに色々な例を上げ指導するよつ心がけています。伝えたいことが伝わる環境は自分でつくれば良い。そして中心者は世代を越えても通じる説得力と存在感を持ち続けるために日々精進すれば良いかと。言語能力が低く小さなコミュニティに満足している心の弱い若者たちが、創作活動に参加した時に、ハツと気づき生き方を見直して、遅しく成長できる場を提供するのが、私の役割の一つだと思います。年齢差など気にせずに済む逞しいメンバーと、骨太の舞台を創作していきたいと思っています。

東海〈名古屋〉  
本島熱 80代  
(紹介者／鹿田由紀)

ほぼ二十余年にわたって、テレビやラジオのドラマ演出に従事していく。そのかたわら舞台の演出、特に放送ではできなかつた欧米の不条理劇に夢中に挑み続けたものだ。しかし、星霜移り世の中めまぐるしく進化

した。たとえば身近などいろでラジオドラマの効果音にしろ、テレビや舞台の照明にしても今やコンピューター操作に慣れきってしまっている。微妙なF-1やF-0さらににはクロス・Fなど納得がいかない場合がある。やはり手動でないと、思うすべて手書きで通している。稀に見るアナログ人間とひとに碰到する。原稿書くにも手紙書くにも話題の時だ。平成生まれ編の出演者は、若さゆえの自信と、多すぎた選択肢を前にした不安に危ういバランスで揺れているのが感じられたが、昭和生まれ編の出演者にとっての将来は、これまでの積み重ねの延長の時間である。世代の差と片付けられようが、それで不都合を感じたこともない。たとえばIT産業とか先端医療とか宇宙開発が飛躍的に進化して、私を遠く置き去りにして行ってしまうとも、私はやはりスロー・アンド・スタイルティの道を歩んでいくだろう。

関西〈大阪〉  
棚瀬美幸 30代  
(紹介者／笠井友二)

、異世代交流シリーズ、と銘打った公演を、一昨年に平成生まれの若者と、昨年に昭和初期で募った出演者との戯曲段階からの共同製作。そのため、稽古の初期段階はワークショップを徹底して行い、メンバーのこと

を企画した意図は、今回の質問のテーマの「世代差」を意識したものからである。

公演の際に感じた世代差は多くあったが、一つだけ挙げるとすれば、『将来』をテーマにした話題の時だ。平成生まれ編の出演者は、若さゆえの自信と、多すぎた選択肢を前にした不安に危ういバランスで揺れているのが感じられたが、昭和生まれ編の出演者にとっての将来は、これまでの積み重ねの延長の時間である。世代の差と片付けられようが、それで不都合を感じたこともない。たとえばIT産業とか先端医療とか宇宙開発が飛躍的に進化して、私を遠く置き去りにして行ってしまうとも、私はやはりスロー・アンド・スタイルティの道を歩んでいくだろう。

東海〈名古屋〉  
本島熱 80代  
(紹介者／鹿田由紀)

ほぼ二十余年にわたって、テレビやラジオのドラマ演出に従事していく。そのかたわら舞台の演出、特に放送ではできなかつた欧米の不条理劇に夢中に挑み続けたものだ。しかし、星霜移り世の中めまぐるしく進化

した。たとえば身近などいろの世代の演劇人から何ももらっていない。これが私のつきあいの方のせいなのか、はたまた福岡の地域性なのかはわからない。でも私にとってダメな年寄りであることに変わりはない。

むしろ考えるべきは、私たちより上の世代のことだ。私は上の世代で深くリアルに感じたことで、私は子供を産むといふ決断ができた。そして今、乳飲み子を抱え、これから的生活に悩んでいる。この悩みこそ、今のこの年代でなければ持てないものだ。

中国・四国〈愛媛〉  
玉井江吏香 40代  
(紹介者／松島寛和)

あるかないかと問われれば、あると思うし、それは今だから、いつ気はあまりない。

九州〈福岡〉  
岩井眞實 50代  
(紹介者／安永史明)

年寄りがダメな社会は、危ない社会だと思つ。自分も年寄りになりがちな気もするので、少し怖い。搖さぶりたい。

劇団をつくりて13年になる。歳も50を過ぎた。でも自分はまだペーぺーだと思っているので、「最近の若い奴は」などと

とう話ではなくて、いつだつてあった、あるだろう、とも思う。と言つても、履歴書差し替えても分からなくらい似た環境に育つても同じ人間にはならないのだから、そもそもギャップの無い関係なんてない、といふことを前提として。

私の職場は今、年齢のばらつきが砂時計のような形になつていて(20～30代が多く、40代が極端に少なく、55才以上が多い)、世代間ギャップは日常生活で、死を射程距離に捉えたものであった。30代後半の私は、そのどちらにも寄ることができなかつた。平成編出演者のようには自分の能力を過信することはできないし、昭和編出演者ほどに生きてきた時間があるわけではない。なんとも中途半端。だが、この当たり前の世代間の差を創作現場で深くリアルに感じたことで、私は子供を産むといふ決断ができた。そして今、乳飲み子を抱え、これから的生活に悩んでいる。この悩みこそ、今のこの年代でなければ持てないものだ。

岩井眞實 50代  
(紹介者／安永史明)

年寄りがダメな社会は、危ない社会だと思つ。自分も年寄りになりがちな気もするので、少し怖い。搖さぶりたい。

## 広報部員募集中

協会誌「D」の編集は、協会事業の急増により、取材が追い付かない状況です。そこで、広報部では、やる気があり、広報に興味のある方を募集します。ぜひ、広報部までお問い合わせください。

# 若手演出家コンクール2013

## 第一次審査通過者決定!!

若手演出家コンクール2013の第一次審査会（ビナオローロ審査）が、2013年8月27日午前11時より一般社団法人日本演出者協会事務局（新宿・芸能花伝舎）にて開催され、議論の末、第一次審査通過者15名が決定した。

青沼リョウスケ（大阪府）

奥村拓（東京都）

柏木俊彦（東京都）

佐藤慎哉（東京都）

澤野正樹（宮城県）

シライケイタ（東京都）

スズキ拓朗（東京都）

武田宣裕（広島県）

田渕正博（東京都）

寺戸隆之（神奈川県）

永妻優一（千葉県）

中村房総（広島県）

フルタジン（東京都）

山本タカ（東京都）

山下由（東京都）

審査にあたった審査員は、左記のとおり。

青井陽治

菊川徳之助

木村繁

小林七緒

佐野バビ市

篠崎光正

土橋淳志

西沢栄治  
橋口幸絵  
はせひろいち  
平塚直隆  
広田淳一  
流山晃祥  
和田喜夫

8月の終わりに帰国してあつと  
いう間にひと月近く経つが台風の  
上陸で去年のサンディーの猛威を  
思い出した。未会員のハリケーン、  
大統領選挙、そして大雪など季節  
を追いかける度に「ニューヨークで  
の記憶が蘇つて来るのだろう。日  
本は四季の移ろいがはっきりして  
いて情緒を感じると良きいわれる  
がそれはニューヨークも同じであ  
る。夏は35度を越える猛暑になる  
し冬はマイナス20度を越える大

なつた。その上で審査会を開催。  
議論のうえ、15名の第一次審査通  
過者を決定した。欠席審査員は電  
話等で審査票補足事項発言および  
議論等に対応した。議事進行は実  
行委員長の大西一郎が行なつた。

今後、11月30日までの期間で、  
審査員が候補者の公演もしくは公  
演に準ずる通し稽古を実際に観に  
行き第二次審査が行なわれ、最終  
審査進出4名（優秀賞）が決定す  
る。

最終審査会は、2014年3月  
4日（火）～9日（日）の期間、  
下北沢「劇」小劇場にてその4名  
による作品上演を経て公開審査で  
最優秀賞が決定する。

# 在外研修 アメリカ・ニューヨーク

雪。この季節の移ろいに合わせた  
ように演劇界にも1年のサイクル  
がある。

当たりにした。決してこれが唯一  
の答えだとは言えないが演劇を文  
化芸術として定着させるシステム  
モデルが作り上げられていた。当  
然問題は山ほどあり日々試行錯誤  
は続いているが演劇界の向上を願  
う人々の純粹な情熱を感じた。

研修の終盤で参加した「ニューヨーク国際フリンジフェスティ  
バル」では実際に日本から自分の作  
品を持って来ての上演ができたの  
だが知名度もなく日本語での上  
演にも関わらず沢山の現地のお客  
様に観てもう事が出来た。たつ  
た160人の劇場で5回の公演に  
も関わらず劇評ができる。それが普  
通のことなのだ。劇評がよければ  
自然と観客が増える。千秋楽は  
soldoutした。作品の評価と集  
客が繋がっていてoffoffの作品で  
あれオノの作品であれ評価に垣根  
はない。作品をきちんと評価する  
システムの必要性を痛感した。

渡米前から抱いていた大きな  
夢である演劇賞の創設を実現す  
べく日々活動していかなくてはと  
270本の観劇メモを眺める日々  
である。



上田一豪



Count Down My Life - Fringe Festival NYC 2013 - © photo, Kenji Mori

演劇が近代演劇として評価され始めたのはオニール以降だといわれる。アメリカ近代演劇の歴史は100年にも満たない。その100年の間に演劇後進国から

の発展は目覚ましかった。リンクアーンセンターで行われた

世界中から集まつた74人の演出家と共に参加した「ディレクターズ・ラボ」でその

システムや組織を目の

ターズ・ラボでその発展を支えてきたシ

テムや組織を目の



# データに見る 「日本の演劇祭」—最近の主な国内演劇祭

今後開催予定のある一主に現代劇中心のものをお選びました。なお、記載できなかつたものについては、機会を改めてご紹介いたします。情報をお寄せください。

## 青森県

寺山修司演劇祭 2013 (三沢市) /3団体・2個人・1音楽 /2013~ /9月22日~23日  
はちのへ演劇祭 (八戸市) /6団体 (2014年) /2012~ /2014年3月14日~16日

## 岩手県

銀河ホール地域演劇祭 (西和賀町) /5団体 /1994~ /9月7日~8日 (毎年9月)

## 宮城県

杜の都の演劇祭 (仙台市) /9団体 /2008~ /2012年12月~2013年2月

## 福島県

富や蔵演劇祭 (郡山市) /4団体 /2007~ /毎年6月

## 新潟県

芸術のミナト☆新潟演劇祭 (りゅーとぴあ舞台芸術フェスティバル内) (新潟市) /11団体 /2011~ /3月9日~20日 (主に2月下旬~3月)

リリック演劇祭シーターゴーイング (長岡市) /6団体 (2014年) /1996~ /2014年2月

## 富山県

どやま世界こども舞台芸術祭 (PAT) (富山県) /79団体 /1983~ /2012年7月31日~8月5日 (4年毎)

SCOT サマー・シーズン (利賀村) /2009~ /8月23日~9月1日

## 石川県

かなざわ演劇祭 (金沢市) /地元4団体・東京2団体 /2000~ /2012年10月27日~11月11日 (偶数年)

いしかわ演劇祭 (金沢市) /6団体 /2003~ /10月30日~11月10日 (奇数年)

## 長野県

まつもと演劇祭 (松本市) /7団体 /2005~ /10月25日~27日

## 鳥取県

鳥の演劇祭 /9団体 /2008~ /9月13日~29日

## 島根県

八雲国際演劇祭 /11団体 /2001~ /11月3日~7日 (4年毎)

## 福岡県

福岡演劇フェスティバル /15団体 /2006~ /4月6日~5月23日

北九州演劇フェスティバル /10団体 /2009~ /2月~3月

えだみつ演劇フェスティバル /10団体 /2009~ /10月5日~11月4日

## 大分県

日田演劇祭 /3団体 /2011~ /8月31日~9月1日

## 佐賀県

海峽演劇祭 /4団体 /2010~ /11月26日~12月8日

## 宮崎県

みまた演劇フェスティバル「まちドラ!」 /9団体 /2012~ /5月24日~26日

## 沖縄県

キジムナーフェスタ (国際児童青少年演劇フェスティバルおきなわ) /39団体 /1994~ /7月20日~28日

名称 (開催地) / 前回の参加団体数 / 初年 / 期間 (月日のみは2013年)

## 北海道

北海道演劇祭 (北海道) /16団体・5個人 /1963~ /2014年10月紋別市にて予定 (隔年)

オホーツク演劇祭 (大空町) /8団体 /2013~ /8月21日~10月27日

教文演劇フェスティバル (教文短編演劇祭) (札幌市) /10団体 /1985~ /8月4日~18日 (毎年8月中旬)

そらら演劇フェスティバル (空知市) /5団体 /2010~ /2012年12月8日~9日 (毎年12月)

サッポロ・シヨー・ケース /11団体 /2011~ /2012年2月25日~26日 (毎年2月)

## 栃木県

トッコ演劇祭 (宇都宮市) /3団体 /2012~ /3月3日

## 群馬県

有都館演劇祭「藏芝居」 (桐生市) /7団体 /1996~ /9月7日~10月27日 (隔年)

## 茨城県

水戸市芸術祭演劇フェスティバル (水戸市) /6団体 /1970~ /8月23日~9月1日

## 千葉県

かしわ演劇祭 (柏市) /13団体 /2011~ /9月21日~23日

## 埼玉県

さいたま市民演劇祭 (さいたま市) /3団体 /2000~ /11月2日・3日

東大宮演劇祭 (東大宮) /3団体 /2006~ /毎年2月最終土日

## 神奈川県

神奈川県演劇フェスティバル (神奈川県内) /17団体 /1995~ /2012年8月~2013年1月

神奈川演劇博覧会 (神奈川県内) /14団体 /2004~ /3月

## 静岡県

ふじのくにこせかい演劇祭 (静岡市) /9団体 /2011~ /6月1日~30日

## 岐阜県

岐阜演劇フェスティバル (岐阜市) /8団体 /2013~ /9月~12月

みずほ演劇祭 (瑞穂市) /12団体 /2002~ /1月19日~2月11日

## 愛知県

東三河演劇フェスティバル (豊川市) /5団体 /2010~ /8月~10月

## 三重県

MIE NEXTAGE (津市) /4団体 /2013~ /3月20日~24日

## 京都府

Kyoto演劇フェスティバル (京都市) /20団体 /1979~ /2月16日~17日

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭 (京都市) /10団体 /2010~ /9月28日~10月27日

## 大阪府

むりやり堀筋線演劇祭 /21劇場 /2009~ /5月~9月

子ども演劇祭in岸和田 (岸和田市) /16団体 /1990~ /8月7日~11日

大阪新劇フェスティバル (大阪府) /12団体 /1973~ /9月14日~12月8日

## 東京都

フェスティバルトキヨー (東京) /35団体 /2009~ /11月9日~12月8日

池袋演劇祭 (豊島区及び近郊) /57団体 /1989~ /9月1日~30日

したまち演劇祭in台東 (台東区) /13団体 /2010~ /8月20日~9月16日

杉並演劇祭 (杉並区) /22団体 /2004~ /3月1日~31日

北とぴあ演劇祭 (北区) /25団体 /2000~ /9月13日~10月14日

下北沢演劇祭 (世田谷区) /28団体 /1990~ /2014年2月1日~3月2日

BeSeto演劇祭 (東京・中国・韓国) /23団体 /1994~ /9月7日~11月10日

夏休み児童・青少年演劇フェスティバル (渋谷区) /22団体 /1973~ /7月20日~8月7日

アリフェスティバル (新宿区) /15団体 /1983~ /7月~2014年3月

岸田理生アバンギャルドフェスティバル (東京都内) /4団体 /2004~ /6月25日~7月7日

ピエンナーレ KAZE 国際演劇祭 (中野区) /2団体 /2003~ /2012年8月3日~9月17日 (隔年)

平和を祈る演劇祭 (西東京市保谷) /5団体 /2005~ /8月30日~31日

※ 2013年10月現在  
インターネット調べ

## 主編集後記

▼新組織となることが5年前からわかつていたかのよう、区切り良く何故か11号から一般社団法人となり、広報部としては気分がいい。協会誌づくりにこれまたひとつ伝説が加わった。最終ページの「データに見る日本の演劇祭」は広報部の情熱が詰まった企画となつた。ぜひ会員の皆さんに様々なところで活用していただきたい。(篠崎光正)

▼協会は一般社団法人になりました。書類作成が年々難しくなり作業は主にPCで行いますが、四苦八苦しています。ああ、アナログの時代が懐かしいなどと言うどう「世代差」の若者にあきれられそうです。(篠木賢一)

▼演劇祭を調べてたら面白そうなものが本当にたくさんあってドキドキしました。東京に住んでいると演劇祭が観光のホームページに掲載されていることも驚きで、少しうらやましくなりました。演劇祭のある時期にそこへ旅行するのも楽しそうだな。(三谷麻里子)

▼今回も多忙により、他の部員にたくさん頼ってしましました。多忙を言い訳にしたくはないのですが、頼り甲斐あるメンバーに感謝です! (大杉良)

▼広報部のお仕事をするなかでたくさんの方とやりとりのですが、その方々が演出する作品を拝見する機会がないなあ、とあらためて感じました。僕自身もそうですが、やはり作品を創っている人間である以上、演劇作品をお互いに鑑賞したり、感想を述べたりする機会は演出家どうしの交流を促進する団体としては大切なことだと感じました。(緑川寛仁)

▼前号の途中段階で広報部の一員となり、今号で初めて企画段階から参加しました。1冊の「D」はたくさんの人たちのご協力のおかげで出来てきているんだなあと実感。感謝です! (秋葉由美子)